



恵まれた施設と自然の中で のびのびと「一人前」を目指す

山口県の南西部に位置する山陽小野田市は、豊かな自然環境にも恵まれた場所。国道や新幹線が通る利便性のある市街地がある一方、周辺に広がる田園地帯や森林、さらに海や川などの身近な水辺空間にも恵まれ、温暖な気候と豊かな自然環境に包まれた魅力ある地域です。



小野田第1団は昭和50年（1975年）創立から48年を迎え、山陽小野田市内を中心に元気に活動しています。2023年現在のスカウト人数は全体で22名・指導者12名で、小学校低学年から大学生まで幅広い年齢のスカウトが在籍。「みんな仲良く」をモットーに、性別や年齢に関係なく活動・協力し合い、一人ひとりが主体性をもって挑戦心・探究心を育てています。

自然を生かしたプログラム

小野田第1団ならではの魅力でもある、自然に囲まれた基地（スカウトハウス）を活動拠点に、環境を生かしたプログラムの数々。

野外が教室となり、春は海岸清掃・野外炊飯、夏はキャンプ・海水浴、洞窟探検、秋は海釣り・イモ掘り、冬は救急法講習会参加・餅つきなど、季節に合わせた活動を実施。

日常生活では得られない体験活動の中で、助け合い、協力することの大切さを学び、子どもが自分自身で成長していくことができます。



WEBサイト・SNSの活用で 魅力を発信

小野田第1団のスカウト数は近年増加傾向で、2019年は10名でしたが、2023年には21人までに増加しています。

新たな入隊を呼びかける活動としては、市内地域交流センターへのスカウト募集ポスター掲示・チラシ配布・HPやSNSでの情報発信など、様々な媒体で発信を続けています。このような地道な活動はなかなか継続が大変なものですが、指導者たちも協力し合い、前向きに活動していることが伺えます。

そのような発信活動により認知度が上がり、さらには最終要因として「口コミ」が最も大きい入隊へ繋がる人が多いようです。取材の日に体験入隊に参加された親子へ尋ねたところ、「サイトで調べて、楽しそうな雰囲気だったのでこちらへ問い合わせをした」とのこと。

一つの要因だけではなく、新型コロナウイルス感染拡大によるさまざまな制限の中でも、配慮しながら活動を続けてきたことや、「みんな仲良く」をモットーにしている団だからこそ、団委員・指導者・保護者のリアルな声が、スカウト数増加に影響しているように感じました。

スカウト・指導員・保護者がひとつに



初秋に開催された、スカウトハウス周辺での地域清掃活動に同行しました。ビーバー隊・カブ隊が共に行う、「プラごみバスターズ大作戦」では、道路沿いを歩きながら散策し、放置されたゴミや空き缶を回収。道路脇には想定より多くのゴミが放置されていることに驚いたものの、隊員たちはまるで宝探しをするかのように楽しみながらゴミを拾い集め、仲間と協力し合い、最終的な分別作業までを行いました。指導者は隊員の安全を確保しつつ、一緒に楽しみながらサポート。

またボーイ隊・ベンチャー隊が行うカーブミラー清掃活動では、高さもあり難しい作業ですが、力を合わせて熱心に作業。ピカピカに磨き上げました。どちらの隊も、他の人の役に立つ喜びや環境への配慮等、多くの学びを得たことでしょう。

午前中の活動を終わると、日常生活では少ない野外で食べる楽しい昼食の時間。学年や地域・性別に関係なく、スカウト・指導者・保護者もひとつになって楽しむ姿が印象的でした。



楽しく活動を続けるために 無理なくできることを

小野田第1団のスカウト数は近年増加傾向である一方、指導者の確保は課題となっています。そんな中、市街へ移動の際の同行をお願いしたり、プログラムを手伝っていただくこともあります。取材日の昼食も指導者・保護者の方が一緒に協力し完成する、「名物カレー」がみんなを笑顔にしてくれました。このように保護者だから、指導者だからと壁を作らず、みんなで協力することで楽しいプログラムを実現しています。

また、指導者だけではなく、ローバー隊も各隊の集会に参加してプログラム展開をサポート。スカウトとして活動してきたローバー隊によるサポートは、指導者にとっても年下のスカウトにとっても心強いものです。実際にローバースカウトから指導者になった、若手の指導者も活躍している小野田第1団では、活動を見守る保護者・指導者がいるからこそ、のびのびと仲良くアットホームな雰囲気、良い流れを生み出しています。

